

国語 第3学年 登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話をしようかいしょう

検討会の想定問答

指摘 1: ねらいが曖昧ではないか。この単元で何を身に付けさせたいのか。

返し: 中心はC(1)イ「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること」。本時は、おじいさんの行動や様子を表す言葉から気持ちを捉え、気持ちが変わったわけを説明することに絞っている。気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること（C(1)エ）までは求めず、変化は三つの欄で捉える程度にとどめる。合わせて(2)イ・(3)オとC(1)オを単元の中で評価する。

指摘 2: 評価規準は何か。どこで見るのか。

返し: 3観点で書いた。文末は国立教育政策研究所の参考資料の形に合わせた。思考・判断・表現①は第3時のノート、②は第4・5時のノートと紹介カード、知識・技能①は第4・5時の引用、②は第6時の振り返り・読書の記録、態度①は第1時からの並行読書の様子と第6時の振り返りで見る。

指摘 3: 言語活動は何か。

返し: C(2)イ「詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動」。「三年とうげ」でおもしろさの観点を見つけ、自分で選んだ民話を、引用しながら紹介カードに書き、読み合って感想を伝え合う。

指摘 4: 個に応じた指導はどうするのか。

返し: 読むのが苦手な子には、本時に線を引く所を含む部分の拡大した本文とふりがなを用意し、線を引く言葉を一か所示す。書くのが苦手な子には、まとめの文の型を板書で示す。早く終わる子には、トルトリの話のどこがおじいさんを変えたかを考えさせる。民話の本は、短い物や絵の多い物も含めて用意する。第3の1(9)の「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」に当たる。

指摘 5: ICTは使わないのか。

返し: 本時は表を紙で作る。端末を使うなら、三つの欄の表を共有の画面で作り、全員の書き込みを一度に見て、同じ言葉から別の気持ちを考えて友達を見つけるのに使う。第5・6時は、紹介カードを撮って共有し、次に読みたい本を選ぶのに使える。第3の2(2)の「コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会」に当たる。

指摘 6: 教科書の手引きどおりでいいのか。独自性はあるのか。

返し: 手引きは指導事項に沿って作られているので、外す理由はない。この指導案は指導事項から直接組んであるので、手引きの問いの言い方がちがっていても、C(1)イを外していなければそのまま使える。独自の所は、おじいさんの気持ちを三つの欄の表で捉え、そこで見つけた観点を、自分が選んだ民話の紹介にそのまま使うこと。教材の観点としては、第3の3(2)コ（世界の風土や文化などの理解と国際協調の精神を養うのに役立つこと）に当たる。

指摘 7: 6時間で足りるのか。

返し: 6時間は光村図書の年間指導計画例に合わせた。足りない時は、第2時の出来事のかめを短くして本時と合わせる。並行読書は、朝の読書の時間や学校図書館の時間と重ねれば、単元の時数を増やさずにできる。読書の指導を学校図書館における指導と関連させることは、第3の1(6)に示されている。配当は年間指導計画に合わせる。

指摘 8: 発問が多すぎないか。

返し: 本時の中心発問は「おじいさんの気持ちが大きく変わったのは、どこですか。どうして変わったのですか」の一つ。ほかは言葉を確認する問いと、考えが進まない子への補助の問いで、全体には中心発問を板書する。(2)イの引用や(3)オの読書は、第3の1(3)にあるとおり思考・判断・表現に当たる事項の指導を通して指導するので、本時に別の発問は立てない。

指摘 9：板書はどう使うのか。

返し：縦書きで、右から左へ出来事の順に三つの欄を並べ、上の段に行動や様子の言葉、下の段に気持ちを書く。言葉と気持ちを上下に並べるのは、C(1)イの「叙述を基に」を形にしたもの。気持ちがいちばん変わる所の矢印を太くし、わけを書き添える。子どもの考えのちがいは左側に並べて残し、消さない。

指摘 10：振り返りは何を書かせるのか。

返し：「言葉から分かったこと」と「友達の考えを聞いて、なるほどと思ったこと」の二つ。一つ目でC(1)イの学び方（言葉から気持ちを考える）を自分で確かめ、二つ目で友達の考えとのちがいに目を向けさせる。第3の1(1)の「主体的・対話的で深い学び」は、子ども自身が考えの変わり方を書くことで確かめる。

指摘 11：「考え方を変えれば元気になれる」という教訓にまとめないのか。道徳の授業にならないか。

返し：教訓を引き出す発問は置いていない。国語科で扱うのは、おじいさんの気持ちを叙述を基に捉えること（C(1)イ）。道徳科との関連は第3の1(10)に「国語科の特質に応じて適切な指導をする」とあり、言葉から気持ちを捉えることそのものが関連で、教訓にまとめる必要はない。子どもの感想に教訓が出た時は、どの言葉からそう考えたかを聞くにとどめる。

指摘 12：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第2〔第3学年及び第4学年〕2内容C読むこと(1)イ・オと(2)イ、〔知識及び技能〕(2)イ・(3)オ、学年の目標(2)(3)。既習は〔第1学年及び第2学年〕C(1)イの「場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること」。原文は授業の設計図の「学習指導要領のどこに書いてあるか」の欄に載せた。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重